

DMG MORI

DIGITIZATION

ADDITIVE MANUFACTURING

AUTOMATION

dynam*i*c

EXCELLENCE

TECHNOLOGY EXCELLENCE

DMG MORI QUALIFIED PRODUCTS

第73期 中間  
株主通信

2020年1月1日●2020年6月30日

証券コード：6141

DMG森精機株式会社

## お客様にとって一番の 工作機械メーカーであること。 それが私たちのグローバルワンです。

工作機械の総合メーカーとして、DMG森精機は常に変革と挑戦を続けてまいりました。そして今、私たちが目指していること、それは、お客様にとって一番の工作機械メーカーになることです。最高の技術とサービスを絶えず追求し、工作機械の新しい価値と無限の可能性を、世界中のお客様へお届けしてまいります。

取締役社長  
博士(工学) **森 雅彦**



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。  
ここに第73期中間期(2020年1月1日から2020年6月30日まで)の  
株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

### Q | 2020年12月期 中間期の業績は？

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上収益は154,344百万円(1,293,747千EUR)、営業利益は2,429百万円(20,367千EUR)、税引前四半期損失は559百万円(4,693千EUR)、親会社の所有者に帰属する四半期損失は2,153百万円(18,052千EUR)となりました。

当第2四半期累計の全社受注金額は、前年同期比39.3%減の1,355億円となりました。当社では早くからデジタル化を推進しており、お客様との商談は継続できたものの、COVID-19による都市

封鎖や移動制限などの影響は避けられず、特に4月、5月の受注が大きく落ち込みました。一方、成約案件については、5軸加工機・複合加工機などの工程集約機、アディティブマニュファクチャリング(積層造形技術)、自動化、デジタル化などが進展しており、1台当たりの受注単価は前年度比5.5%増と引き続き上昇しました。また、半導体製造装置関連需要が堅調に推移し、その部品を供給するグループ会社が健闘いたしました。機械受注の地域別動向は、前年同期比で日本が42%減、欧州が55%減、中国を含むアジアが40%減と大きく落ち込みましたが、米州は19%減と減少幅は比較的軽微に留まりました。また安定的に

推移してきた修理復旧サービス・補修部品も23%減と、特に第2四半期(4~6月期)の大きな調整の影響を受けました。産業別には、半導体製造装置関連、金型関連、医療関連は堅調に推移しましたが、航空機関連は失速し、自動車関連はもう一段落ち込む結果となりました。

※ユーロ建表示は2020年1月~6月の期中平均レート119.3円で換算しております。

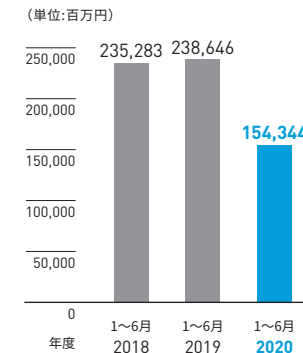
### Q | 2020年12月期 中間期の技術と成果は？

当社は、5軸加工機・複合加工機やアディティブマニュファクチャリング機をプラットフォームとした自動化、デジタル化を推し進め、工作機械

メーカーから機械加工の全プロセスを提供するトータルソリューションプロバイダへと進化を遂げております。その中で、NTTコミュニケーションズ株式会社及びKDDI株式会社と連携し、ワーク自動搬送ロボットや人工知能(AI)学習を利用した切りくず除去など、5Gを活用した新たな技術の開発を進めております。また、ポータルサイト「my DMG MORI」では、保有機のメンテナンス情報や稼働率の確認、遠隔でのオペレーター教育や修理復旧サービス依頼などを実現しております。さらに、オンライン会議システムを活用した出荷前検査「デジタル立ち会い」により、お客様が当社工場を訪問することなく、納入予定の機械や周辺設備をリアルタイムで確認することが可能となりました。オペレーター教育に関しては「デジタルアカデミー」を導入し、

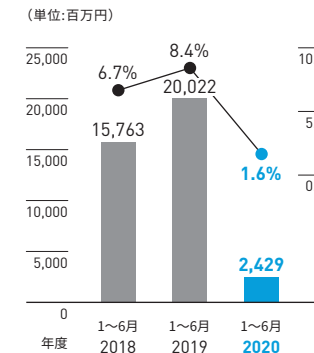
#### 連結売上収益

(1~6月) **1,543** 億円



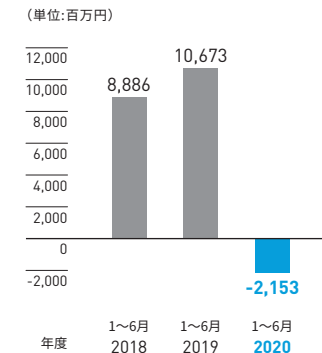
#### 連結営業利益

(1~6月) **24** 億円



#### 親会社の所有者に 帰属する四半期利益

(1~6月) **△22** 億円



いつでも学習可能なeラーニング形式と従来の加工実習形式を組み合わせ、より質の高い教育サービスを提供しております。さらに、プログラミングの知識がなくとも簡単にアプリを作ることができるアプリ作成プラットフォーム「TULIP」で作業手順書の作成から機器のモニタリングまでサポートし、生産性向上に貢献します。

技術面については、2機のレーザ照射装置により加工効率を1.8倍に向上させたLASERTEC 30 DUAL SLMを日本国内でも販売開始したほか、複合加工機NTXシリーズに多品種少量生産への対応に最適な大容量工具マガジン、及び大型ワークの加工に最適なレーザ金属積層造形機LASERTEC 6600 3D hybridの提供を開始いたしました。LASERTEC 6600 3D hybridは、金属の積層造形と切削加工を1台の機械で行えるため、従来以上に進んだ加工が可能になります。また、お客様先のデジタル・トランスフォーメーション(DX)と

先進技術の開発拠点として、奈良商品開発センタを2022年春に新設いたします。販売面では、COVID-19の感染拡大により、展示会への出展や自社展示会の開催を見合わせる一方で、お客様に最先端技術を体験いただける「デジタルツインショールーム」を公開いたしました。4K画質のフルCG制作で、360°パノラマビューにより、実際にショールームにいるような没入感を体験いただけます。機械や周辺装置を展示、各製品情報やカタログへのアクセスも可能です。また、実空間のショールームでは、毎週金曜日に少人数制の自社展示会「DMG MORI テクノロジーフライデー」を開催し、従来以上に個々のお客様に寄り添った対応が可能となりました。そのほか、当社エキスパートや社外講師によるオンラインの技術セミナー及び製品紹介動画も多数公開しております。当社は、今後もデジタルとリアルの両方のお客様とつながり、最適なソリューションを提供してまいります。

## Q | 2020年12月期 通期の見通しは？

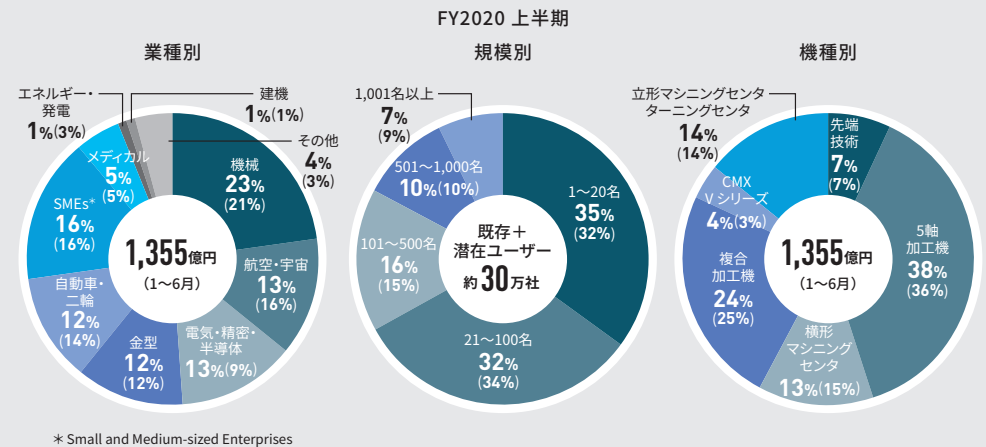
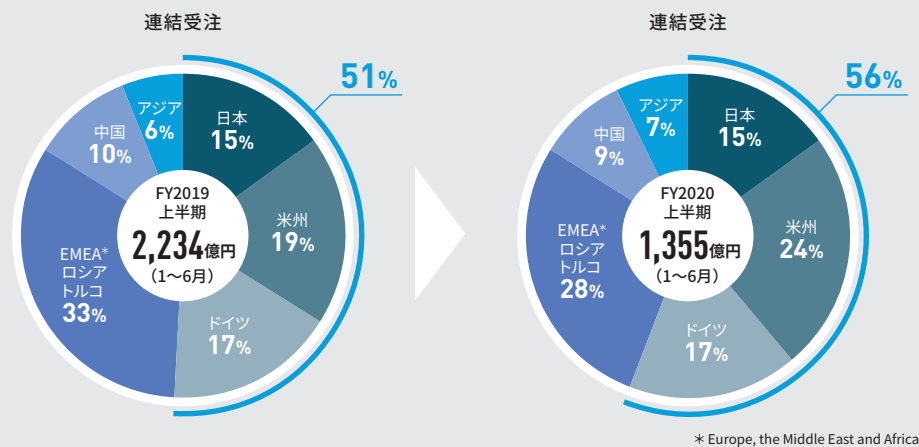
COVID-19の影響が今後も継続すると予測されますが、5月以降は、営業・修理復旧サービス活動は正常化しつつあり、受注も4月、5月を底に6月は回復いたしました。最近の業績動向を踏まえまして、2020年12月期の連結業績予想を、売上収益330,000～340,000百万円、営業利益7,000～10,000百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,000～3,000百万円に修正いたします。デジタルツインショールームの開設、DMG MORI テクノロジーフライデーの実施などからお客様の工程集約、自動化、デジタル化への潜在ニーズが一層高まっていることを認識しております。これら潜在ニーズを顕在化させ、さらなる受注増大に努めてまいります。当社では、「よく遊び、よく学び、よく働く」をモットーに掲げており、全社員が心身ともに充実した生活を送り、スキルアップできる風土を重視しております。

労働時間や有給休暇取得率の定期的なモニタリングを実施しているほか、感染症予防の観点から在宅勤務を励行しており、テレビ会議システムの活用や社内教育の配信などによって、遠隔地でも円滑に業務が遂行できる体制を整えております。また、当社が2018年10月に立ち上げた「DMG MORI SAILING TEAM」は、単独・無寄港・無補給で世界一周をする過酷なヨットレース「Vendée Globe 2020」への出場権を獲得し、2020年11月の開催に向けて準備を進めております。当社は、こうした活動を通してグローバルにステークホルダーを持つ企業としての社会的責任を果たし、持続可能な発展によって継続的に企業価値を高めてまいります。当期の株主配当につきましては、従来計画からの変更はございません。1株当たり中間配当金を10円、期末配当金を10～20円で計画しております。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 地域別受注構成 ※金額ベース

## 受注構成 ※金額ベース

(カッコ内：2020年1Q)



## DMG MORIのデジタル化提案の加速

当社はこれまでフルCGと4K映像を組み合わせた超高精細な製品紹介動画を制作し、デジタルソリューションを活用した製品提案に力を入れてまいりました。この度のCOVID-19感染拡大によりデジタル化が加速し、製品や加工技術など工作機械に関する600本以上の動画や、加工のコツ・お客様事例など100本以上の読み物記事など、蓄積してきた豊富なデジタルコンテンツや、オンライン会議システムを活用した新たな取り組みを開始いたしました。

### デジタル立ち会い

4月23日よりオンライン会議システムを活用した工作機械の「デジタル立ち会い」を開始いたしました。工作機械の出荷前には機械の外観や加工精度、加工物、システム動作などを、当社工場にて現物をお客様にご確認いただく「立ち会い」を多く実施しています。当社工場とお客様をつなぎ、出荷前の工作機械やシステムに取り付けた複数のカメラ映像をリアルタイムでご確認いただくことで、遠隔でのデジタル立ち会いを実現しました。



デジタル立ち会いの様子

### デジタル記者会見

5月21日にオンライン会議システムを使用した、デジタル記者会見を開催いたしました。「DMG MORI デジタルファクトリー実現に向けた取り組み」をテーマとし、取締役社長 森 雅彦より、5Gの取り組みやmy DMG MORI、デジタル立ち会いなどについてプレゼンテーションを行った後、画面越しに顔を見ながら質疑応答を実施いたしました。今後もご紹介内容に応じて最適な方法で情報発信してまいります。



デジタル記者会見の様子

### my DMG MORI

機械購入後にお客様と当社をつなぐコミュニケーションプラットフォーム「my DMG MORI (マイディーエムジーモリ)」の提供を開始いたしました。工作機械は10年、20年にわたってお客様にお使いいただく製品です。そのため、お客様と長期的に強いパートナーシップを築くことが重要と考えており、機械が常に最高のパフォーマンスを発揮できるようサポートしています。my DMG MORIは、お客様が保有機の情報を一元管理できるように、また設備の急なトラブルにも早期に復旧できるように、ネットワークを通じてお客様の生産性と収益拡大に貢献するオンラインサービスです。



my DMG MORI の画面イメージ

### デジタルアカデミー

6月30日からeラーニングと加工実習を組み合わせ、お客様により質の高い教育サービスを提供する「デジタルアカデミー」の提供を開始いたしました。当社はお客様の優れた加工技術者育成をお手伝いするとともに、機械導入時のスムーズな立ち上がりをサポートするため、日本・アメリカ・ドイツにDMG森精機アカデミーを設立し、工作機械の操作方法などをお客様にお教えする各種スクールを提供してまいりました。加工実習前に講義の一部をeラーニングで受講いただくことで、現地での当社の経験豊富なエンジニアによる実機を用いた加工実習を最大5日間から2日間に凝縮することができます。eラーニングは操作も簡単で使いやすく、ログインからわずか2クリックで受講可能です。なお、繰り返し視聴ができて、受講期間内に何度でも電話やメールで質問ができるため、高い学習効果が得られます。



デジタルアカデミー eラーニング

デジタル  
アカデミー  
紹介映像



### デジタルツインショールーム

当社Webサイトにてグループ最大の生産拠点である伊賀事業所内のショールーム“伊賀グローバルソリューションセンタ”をデジタルツインで再現した「デジタルツインショールーム」を7月3日に日英版同時公開いたしました。機械だけでなく、自動化システムや加工ワーク、そして治具・工具・周辺装置などのDMG森精機認定周辺機器 (DMQP製品) を展示し、製品情報やカタログ、展示に応じた特集ページ、関連動画をご用意しており、合計200以上のコンテンツへ直接つながります。今後当社は、デジタルとリアルの両方でお客様とつながり、最適なソリューションをご提案し、お客様の生産性向上に貢献してまいります。



デジタルツインショールーム

デジタルツインショールーム  
紹介映像



## 東京グローバルヘッドクォータ CO<sub>2</sub>排出量ゼロの電力に切り替え

2020年4月使用分より東京グローバルヘッドクォータの電力供給会社をオリックス株式会社に切り替え、CO<sub>2</sub>排出量ゼロの電力供給を受けています。これにより、東京グローバルヘッドクォータにおいて電力使用によるCO<sub>2</sub>排出量ゼロを達成いたします。電力供給会社の切り替えにより、年間約385.8トン(2019年実績)のCO<sub>2</sub>排出量を削減できる見込みです。これは、杉の木約2万7千本が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>に相当します。\*

※杉の木は年間14kg/本のCO<sub>2</sub>を吸収(出典：環境省/林野庁)

## 奈良商品開発センターの 新設を発表

創業の地である奈良に、お客様先のデジタル・トランスフォーメーション(DX)と先進技術のための開発拠点としてJR奈良駅前に奈良商品開発センターを新設いたします。2022年春の開設を予定しており、建物のデザインは建築家の隈 研吾氏に委託しました。また、メインエントランスは当社の先進の金属加工技術により、有機的な木目柄に切削されたアルミ材を用い、ヒューマンスケールで温かみのあるオフィスで、古都奈良と調和する建築をコンセプトとしています。



## 少人数制オープンハウス 「DMG MORI テクノロジーフライデー」を開催



6月26日から毎週金曜日に、伊賀事業所と東京グローバルヘッドクォータの2拠点にて、少人数制のオープンハウス「DMG MORI テクノロジーフライデー」を開催しています。5軸化・複合化、自動化、デジタル化をテーマに掲げ、ご来社のお客様のご関心事にカスタマイズした最新技術セミナー、工場・ソリューションセンター見学、実演加工を通して複合的な生産性向上をご提案いたします。また、四半期ごとに新たな製品、技術をご紹介します。



## SDGs (Sustainable Development Goals) への取り組み

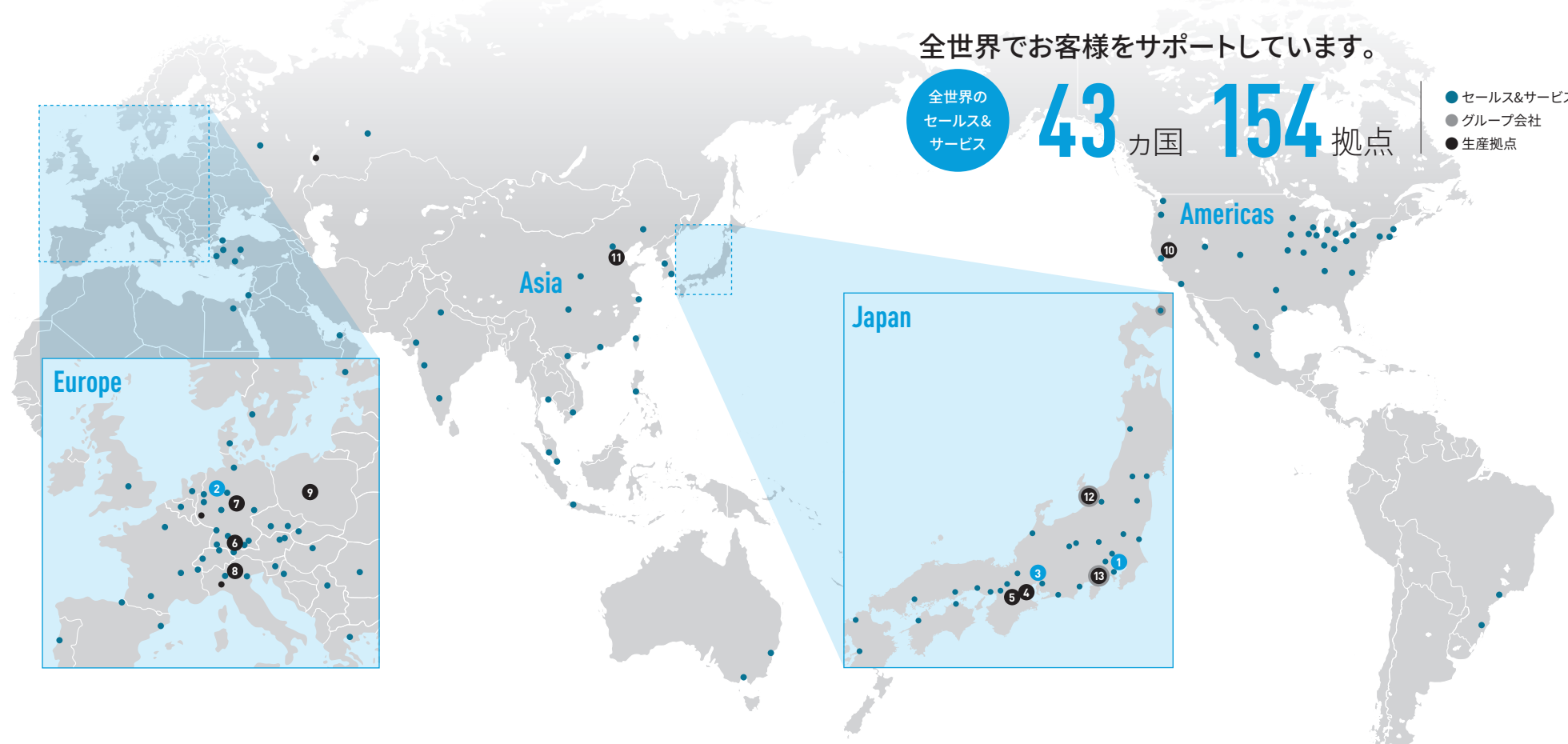
	関連する目標	社会的課題	DMG MORIの取り組み
<b>環境</b> Environment	12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に異常な対応	・お客様の製造工場から排出されるCO <sub>2</sub> の抑制 ・製造工程で排出されるCO <sub>2</sub> 等の抑制	・CO <sub>2</sub> ニュートラルへの挑戦 ・中古機販売 ・省エネ技術(GREENmode)によるエネルギー消費量抑制 ・製造現場における排出量のモニタリング ・森林保全
<b>人材育成</b> Human Capital	5 ジェンダー平等を奨励しよう 8 働きがいも経済成長も	・女性の活躍を推進する ・事業活動地域での雇用促進 ・長時間労働を防ぎ、生産性を高める	・仕事と家庭の両立支援 ・従業員国籍の多様性 ・メリハリをつけた働き方で、労働生産性向上
<b>社会貢献</b> Social Contribution	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	・質の高い技術教育へのアクセス ・イノベーションの促進と、資源利用率の向上	・森記念製造技術研究財団の設立 ・DMG森精機奨学基金への拠出 ・大学、高等専門学校への助成 ・学術関連団体との提携による研究開発 ・DMG森精機アカデミー ・スポーツと芸術の振興
<b>ガバナンス</b> Governance	16 平和と公正をすべての人に	・大量破壊兵器の製造を防ぐ ・盤石な経営体制	・厳格な輸出管理手続きに基づいた、製品の平和利用を担保 ・コーポレート・ガバナンス体制の徹底

全世界でお客様をサポートしています。

全世界の  
セールス&  
サービス

43 力国 154 拠点

- セールス&サービス
- グループ会社
- 生産拠点



グローバル  
ヘッドクォーター

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティング・経理財務・人事を統括するグローバル本社です。



1 東京

ナショナルヘッドクォーター

ドイツ

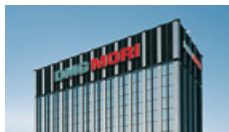
DMG MORI AGの本社として機能します。



2 Bielefeld

日本

DMG森精機の本社として機能します。



3 名古屋

開発・生産 (日本)



4 伊賀



5 奈良  
システムソリューション工場

開発・生産 (ドイツ・イタリア・ポーランド・アメリカ・中国・グループ会社)



6 Pfronten (ドイツ)



7 Seebach (ドイツ)



8 Bergamo (イタリア)



9 Pleszew (ポーランド)



10 Davis (アメリカ)



11 Tianjin (中国)



12 太陽工場 (新潟)



13 マグネスケール (神奈川)

※主要開発・生産拠点、他数カ所

連結財政状態計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当中間期
	2019年 12月31日現在	2020年 6月30日現在
流動資産	218,409	200,849
非流動資産	306,196	302,174
有形固定資産	130,943	127,997
のれん	66,516	65,772
その他の無形資産	62,773	62,768
その他	45,964	45,637
資産合計	524,606	503,024
流動負債	272,553	295,039
非流動負債	124,246	92,129
資本合計	127,807	115,855
負債及び資本合計	524,606	503,024

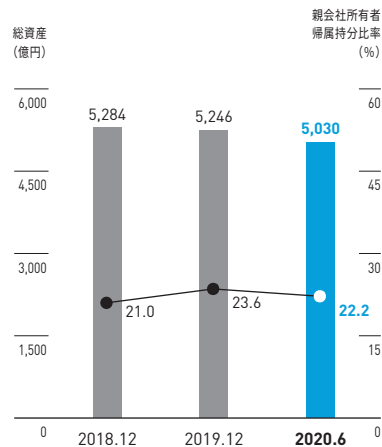
連結損益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自2019年1月1日 至2019年6月30日	自2020年1月1日 至2020年6月30日
収益合計	241,604	157,106
売上収益	238,646	154,344
その他の収益	2,957	2,762
費用合計	221,581	154,676
商品及び製品・ 仕掛品の増減	△11,811	△2,482
原材料費及び 消耗品費	118,178	66,498
人件費	65,698	54,306
減価償却費及び 償却費	10,827	11,597
その他の費用	38,688	24,756
営業利益	20,022	2,429
税引前四半期利益	17,030	△559
四半期利益	11,095	△2,234
親会社の所有者	10,673	△2,153
非支配持分	421	△80

総資産／親会社所有者帰属持分比率



連結キャッシュ・フロー計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自2019年1月1日 至2019年6月30日	自2020年1月1日 至2020年6月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	16,827	△8,427
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,238	△7,060
財務活動による キャッシュ・フロー	△18,686	6,087
現金及び 現金同等物に係る 換算差額	△744	△554
現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)	△7,842	△9,954
現金及び 現金同等物の 期首残高	27,368	27,695
現金及び 現金同等物の 四半期末残高	19,525	17,741

詳しい解説は「連結決算Q&A資料」より  
ご覧いただけます。

DMG森精機 投資家

検索

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>

Q 今後の受注見通しについて

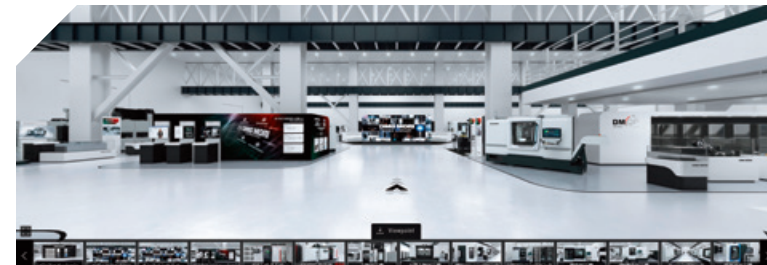
A 当第2四半期(4~6月期)の全社受注金額は前年同期比45%減の572億円と、2018年第1四半期(1~3月期)の1,486億円のピーク水準に比し38%の水準まで調整しました。当第2四半期の受注は、各国での移動制限などの特殊要因が重なり大きく減少し、今回の調整局面でボトムを形成したものと考えています。現在は、これら特殊要因も改善しつつあることから、第3四半期の全社受注は700~750億円程度まで回復し、その後も緩やかに増加していくものと計画しています。

Q 収益構造改革及び損益分岐点売上高引き下げの進捗について

A 当第1四半期の決算説明会時(5月28日)に、今年度の損益分岐点売上高を3,100~3,200億円程度に引き下げる計画であることを公表しました。当第2四半期実績では、損益分岐点売上高は、年度換算ベースで3,000億円程度まで低減できました。ただ、当第2四半期は、欧州での工場閉鎖、各国での時短労働などによる一過的な人件費の減少などの効果も包含しています。これらの一過的な費用削減を調整した年度の損益分岐点売上高は3,100~3,200億円と試算しています。損益分岐点売上高引き下げの要素として掲げた付加価値向上による粗利益改善、デジタルイノベーションによるコスト削減は計画通りの進捗となっており、人件費の削減に関しては計画を上回る進捗となっています。

株主様向け見学会の開催見合わせのお知らせ

COVID-19感染拡大の情勢を鑑みまして2020年下半年の見学会は、開催時期を見合わせさせていただきます。ご来場の皆様や関係者の安全を第一に確認の上、今後の開催について検討してまいります。なお、当社Webサイトにてグループ最大の生産拠点である伊賀事業所内のショールーム“伊賀グローバルソリューションセンタ”を再現した「デジタルツインショールーム」を公開しています。実際にショールームを歩いているような、リアルな没入感をぜひご体感ください。



デジタルツイン  
ショールーム



会社の概要

2019年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	〒639-1160 奈良県大和郡山市北郡山町106番地 TEL: 0743-53-1125(代)
東京グローバル ヘッドクォーター	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL: 03-6758-5900(代)
名古屋本社	〒450-0002 名古屋市中村区区駅2丁目35-16 TEL: 052-587-1811(代)
主な事業内容	工作機械(マシニングセンタ、ターニングセンタ、 複合加工機、5軸加工機及びその他の製品)、 ソフトウェア(ユーザーインタフェース、 テクノロジサイクル、組込ソフトウェア等)、 計測装置、修理復旧サポート、アプリケーション、 エンジニアリングを包括した トータルソリューションの提供
従業員	12,837名(連結)
ホームページ	https://www.dmgmori.co.jp

役員

2020年6月30日時点

取締役社長	※ 森 雅彦
取締役副社長	クリスチャン・トーネス
取締役副社長	※ 玉井 宏明
取締役副社長	※ 小林 弘武
専務取締役	藤嶋 誠
専務取締役	ジェームス・ヌド
取締役	青山 藤二郎
取締役	野村 剛
取締役	中嶋 誠
取締役	御立 尚資
常勤監査役	川山 登志雄
監査役	土屋 総二郎
監査役	川村 嘉則

(注)1.※印は、代表取締役を示しています。  
2.取締役の青山藤二郎、野村剛、中嶋誠、御立尚資の4名は、  
社外取締役です。  
3.監査役の土屋総二郎、川村嘉則の2名は、社外監査役です。

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話: 0120-782-031(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話: 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.dmgmori.co.jp">https://www.dmgmori.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他の やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に 掲載いたします。)

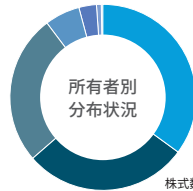
(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未済株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式の状況

2020年6月30日時点

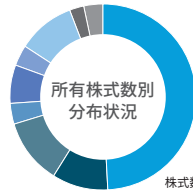
発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	124,828,516株(自己株式1,125,167株を除く)
単元株式数	100株
中間期末株主数	37,826名



大株主

2020年6月30日時点

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,066	6.46
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	4,720	3.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,237	3.39
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	4,207	3.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	3,869	3.10
DMG森精機従業員持株会	3,706	2.97
森 雅彦	3,591	2.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (森記念製造技術研究財団口)	3,500	2.80
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,691	2.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	2,576	2.06



(注)1.持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には野村信託銀行株式会社(DMG森精機従業員持株会専用信託口)が所有する当社株式(1,280,100株)は含まれておりません。  
2.日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、2020年7月27日付でJTCホールディングス株式会社及び資産管理サービス信託銀行株式会社を吸収合併し、商号を株式会社日本カストディ銀行に変更しております。

ホームページのご案内

<https://www.dmgmori.co.jp>

ホームページにて当社の企業情報を随時公開しています。

製品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、コーポレートページでは決算短信などもご覧いただけます。また、投資家情報ページにて決算説明会の様子を、オンデマンド配信しています。



TOPページ



コーポレートページ



投資家情報ページ



DMG MORI 公式  
ソーシャルメディア  
アカウント



Facebook



Instagram



YouTube





FIRST QUALITY

SERVICE EXCELLENCE

EMPLOYEES

GLOBE - GLOBAL ONE BUSINESS EXCELLENCE

SUSTAINABILITY

